

技術士の役割

明けましておめでとうございます。

昨年はご承知のとおり、台風並みの低気圧の通過に伴って、暴風雪、高潮、大雨などによる被害が多く発生いたしました。記憶の新しいところでは、9月10日に発生した鬼怒川の堤防決壊で、その原因は台風から変わった温帯低気圧と台風17号の双方から暖かく湿った風が吹き込み「線状降水帯」と呼ばれる積乱雲が帯状に次々と発生し、長時間にわたって強い雨が降り続いたことによります。

このような台風や低気圧の大型化は、今後も海水温の上昇に伴い発生が多くなり、異常な雨や竜巻、高潮が増大すると懸念されています。

一方、社会面では昨年大筋合意した環太平洋連携協定(TPP)による安い輸入品による不安(価格や自給率の低下、産業の衰退、安全安心への不安)があります。

しかし、ピンチはチャンスでもあり、国際社会とのつながりが一層深まる時代に、技術士も時代の変化と共に前に進んで行かなければなりません。

さらに、社会問題では、くい打ちデータの改ざん・流用の問題がありました。技術者や会社の倫理が改めて問われています。

このような情勢の中、我々技術士は倫理を備え役割の一つとして、いっそう自然災害や国際社会とのかわりに対応した社会資本のソフト面、ハード面の整備がより一層求められると思います。

なお、北方海域技術研究委員会では、平成27、28年の事業計画において、以下の活動を行っています。北海道の周りの海洋において、

- ① 地球気候変動によってどのような変化が顕在化するか(海水温、海水面、極限現象等)。

若林 隆 司(わかばやし たかし)

技術士(水産/建設部門)

公益社団法人
日本技術士会北海道本部
北方海域技術研究委員会 代表
(株)アルファ水工コンサルタンツ



- ② それによって海岸・港湾・漁港の災害リスクはどう変わるか。

- ③ 水産有用魚種(捕獲漁業、養殖)にはどのような影響が出るか。

を主題として講演会・勉強会等を開催し、その成果を整理して、エンジニアの立場から、同じくエンジニアおよび沿岸防災に関わる関係者、港湾・水産関係者などに向けて、わかりやすい情報を発信しております。

また、今年は申年「災いが、さる年」になるよう技術士として果たす役割は大きいと思います。それぞれの分野での問題解決へ、一步でも前進できるよう、その意識と行動が重要な年とも考えます。

ところで、技術士諸先輩からの引き継がれている言葉の一つに、「技術士の資格を得ることだけが最終目的でなく、技術士は資格を得た後の後輩育成や技術研鑽ひいては社会にどれだけ貢献できるかである。」とお話を伺いました。

少し堅い話になりますが、技術士とは、「技術士の名称を用いて、科学技術に関する高等の専門的应用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者」です。また、技術士は、職業倫理を備えることを求められると同時に、技術士として資質の一層の向上を図るため、資格取得後の継続研鑽(CPD)が責務とされています。

今年は、日本技術士会北海道本部創立50周年で、記念行事も企画される中、技術士の役割や社会への貢献に対して改めて考える節目であると考えます。

最後に、皆さまや社会にとって、新しい年が更に良い年になるよう祈念致します。